

福井県立福井商業高等学校

〒910-0021 福井県福井市乾徳4-8-19 ☎0776-24-5180

活動団体 JRC部 活動人数 4人 主な活動時間 部活動として

プラスチックごみの多さに嫌気がして「脱プラスチック活動を始めました！」

きっかけ

「海はごみ箱じゃないのに！」。冬の日本海の高波が打ち寄せる砂浜で、海岸清掃をする生徒たちから、あきれたような、腹立たしいような声が漏れた。特にショックだったのは、プラスチックごみの量だ。海外のペットボトルを含め、たくさんのごみが散乱していた。

ボランティア活動に取り組むJRC部は、海岸清掃を通して海の危機を肌身に感じ、プラごみ削減に取り組んだ。



海岸の現状を知ってもらうため、スーパーや市内の掲示板に啓発ポスターを貼るなどした。

活動内容

2021年12月、地元・三国サンセットビーチで、50メートル四方の範囲でごみを回収する実態調査を行った。160キロものごみがあり、その7割はペットボトルやプラスチック。特にペットボトルの半分近くは、ラベルが剥がれており、対策が必要と思われた。

生徒たちはまずラベルレスペットボトルの購入促進に取り組んだ。実態調査時の写真やデータを載せたポスターをお店に掲出するなど、街や学校で啓発活動を実施。さらに飲料メーカー5社に向け、自動販売機で売るペットボトル商品のラベルレス化の提案も行った。

「脱プラスチック」の訴えも、もう一つの柱だ。マイボトルの利用推進や、脱プラスチック製品の紹介ポスターの作成をし、地元スーパーで紙パックといったプラスチック代替品の使用などの現状も調査した。



学内でも脱プラスチック商品の展示をして環境問題への意識を向上させた。

成果

市内の商業施設や駅などの公共施設に協力を呼びかけるなかで、連携の輪が広がったのは大きな成果だ。また脱プラスチック製品を紹介する活動を通じて、校内での関心も芽生え始めている。生きものを守る活動を、みんなに自分ごととして受け止めてほしいと生徒たちは活動している。

飲料メーカーへのラベルレス化の提案は、まず5社中1社から、積極的な返答を得た。このメーカーの自動販売機が学校に置かれているため、機会があれば協力したいと申し出ている。

活動エピソード

ラベルレスのペットボトルは、ともすると手抜き商品と勘違いされ、「中高年層はラベルレスを選びにくい」との声を聞いた。そこで啓発ポスターにふるさとのビーチが今どうなっているかを写真とデータで知らせ、多くの人を説得できるよう工夫した。

今後の展望

100人あまりで清掃して、海岸はきれいになっても、海の底までは手が届かない。「魚さんに美しい海を返しましょう」を合言葉に、海岸清掃から脱プラスチックに取り組んでもらえる呼びかけを今後も行っていく予定だ。